

(事例15) 38歳男性、電子部品製造業、糖尿病のため交替勤務禁止

類型	症候	疾患
1	1. 高血糖	9. 糖尿病

きっかけ	<input checked="" type="checkbox"/> 健康診断の有所見	<input type="checkbox"/> その他の機会
1. 対象者のプロフィール 1) 年齢、既往歴 38歳 男性 2) 業種、作業内容 電子部品メーカーでの業務請負、製造ラインでの三交代作業		
2. 就業制限・配慮の対象となった疾病、健診値異常 例) 高血圧、HbA1c 高値、腰痛など 糖尿病		
3. 就業制限・配慮の内容 例) 高所作業禁止、出張禁止、残業禁止、配置転換、治具導入など 保留 交代勤務の適否について：最近の治療状況も含めて判断する。但し、本人希望あれば常昼または常甲勤務が望ましい。作業前体調チェックなど留意のこと。		
4. 事例の詳細（背景、経緯、特に考慮した事情など） 糖尿病について近医にて内服治療中だった。健診にて血糖値 272mg/dl のため治療状況等確認のため本人と面談。判定保留として主治医に紹介状-返書の形で情報交換を行い、重労働はないことを確認したうえで交代勤務可とした。治療強化依頼するも経過思わしくないまま2年経過、本人に浮腫が生じたため他の病院を紹介受診、腎不全で透析導入。ほか網膜症などもあり、日勤・軽作業に転換となった。		
5. 就業制限・配慮の主な目的（複数回答可） ① 業務が当該労働者の健康、安全、疾病経過、予後に影響を与える可能性があったため		
6. 就業制限を実施するにあたって注意した事、阻害要因、問題点などあれば教えてください 収入面からも交代勤務からの転換には躊躇せざるを得ない会社であった。重労働など過酷な環境下ではなく、治療継続ということもあり交代勤務不可の絶対的条件とは考えず、通常勤務とした。本人のコンプライアンスもそこまで不良というわけでもなかったが、主治医の治療姿勢に問題があり結果として状態を悪化させてしまった。		